

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200628		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム みどりの森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	令和 1年 11月 25 日	評価結果市町村受理日	令和2年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和1年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に沿い家庭的な雰囲気を大切にしている。ご利用者様の意向をに沿い利用者様本位の介護を心掛けスタッフと利用者様が何でも話合える生活の場を作って行けるような関係をこころがけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな森の中にたたずむ、木の香りが感じられるホームである。開設3年目であるが、地域の一人として交流に努めており、協力関係が構築されてきている。季節感を大切に生き生きとした毎日が送れるよう、個々の尊厳を考え配慮ある関わりがもたれていることで入居者の方には明るい笑顔が多くみられている。非常口には広いスロープが設置されており安心して生活できるよう工夫されている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼を行い理念について共有し、その日の目標が実践できる様に心がけている	玄関には理念が掲げられ毎日の朝礼で確認している。理念が日々のケアに反映されているか職員相互に振り返りが行われており、一人ひとりが理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事がある時は出来る限り参加させていただき地域の方々と一緒に見学させて頂いている	地区のゴミ掃除参加、子供浮立の見学、歌や踊りのボランティアとのつながりなどを通して、地域の一員として日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動などは参加させて頂いている。月に1回は施設周辺の環境整備を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。出席者の方にホームでの状況報告を行い適切な意見を頂いている	2ヶ月に1回開催され、老人会の役員、市職員、介護相談員、家族が出席して、事故・ヒヤリハット報告や相談、意見交換がなされている。欠席者にも議事録を送付しており、職員も回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でホームでの状況や取組について説明している。直接電話などで相談や案内をすることもある	運営推進会議以外にも様々な機会をとらえて、日頃からホームの現状を知ってもらえるよう連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉での拘束・身体拘束は行わない方針で話し合い、朝の朝礼で確認してケアに取り組んでいる	身体拘束を行ったことはなく、日中は玄関の施錠もしていない。身体拘束マニュアルを玄関に置き、いつでも目を通せる状態にしている。定期的に虐待防止の勉強会を開催し、言語での拘束も行わないことを朝礼で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会を行い職員に周知徹底できる様に言葉使いなどは朝の朝礼でも話している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修で学んできたことを資料を回覧したり、勉強会行ったりして理解できる様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を説明し、理解・納得されたことを確認して契約行っている。又疑問があればどんなことでも何時でも訊いてもらうように説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族様の訪問時は状況の説明をしながら意見を聞く様にしている	ホーム内に意見箱を設置している。面会時に声掛けし家族の意向把握に努めている。また、折々にホーム便りを発行し近況を家族にお伝えして何でも話してもらえる雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見交換・問題点を話し合っている。個別の意見も聞く様にしている	会議で意見を聞くほか、日常業務の中から声をかけて現場の意見をくみ取るようにしている。出た意見は、申し送りノートで共有して働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人的に面談を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修に行ける機会を設けている。研修会で学んできたことは勉強会で発表して職員が共有できる様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での勉強会などに出席して情報を共有している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様・家族様の意向を優先し、主治医の適切なアドバイスを受けて安心した生活が送れるような計画を作成してケアに取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様の不安や困り事を聞き出し了解を得て他職者との連携にて不安が軽減していく様に関係作りしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学の際には事前にSW・CMなどの事前の情報を参考にして本人様・家族様の話を聞き本人様にとって良い宝庫で話合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いを尊重し合いながら生活を共にする思いで本人様の自立を促し家庭的な暖かいケアを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と連携をとりながら本人様が一番よい環境で過ごされるように電話・面会・外出などの支援を協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくりとした時間を過ごせるように居室やリビングでお茶・お菓子などを出してくつろいでもらっている。次回の訪問や電話なども負担のない程度にお願いしている	入居時になじみの場所や人物について家族から聞き取り、把握している。友人・知人の面会時は見守り支援を行ったり、いきつけの商店や図書館に同行するなど、一人ひとりの生活習慣を尊重しているが、外出の機会が少ない。	これまで培ってきた人間関係や社会との関係を大切に、具体的かつ積極的に関係継続の支援がされるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の交流が上手く行く様に職員が中に入りコミュニケーションが図れる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には何時でも相談できるようにしていることを伝え、季節の変わりめなどに葉書等を出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活パターンに近い生活が出来る様に本人様の意向や思いを聞き入れ本人様の状態にあったケアが出来る様にしている	入居時に事前情報・アセスメントで本人の意向を把握しているが、表情やしぐさで本人の気持ちに注意を払い、確認に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様・家族様より生活歴・趣味・S行などの情報を得、入居後も関係性を深めながら新たな情報や思いを聞き出せるように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との話しあいにて本人様の思いや1日の生活状態を理解して職員からの情報も共有して心身の状態にあったケアを心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様より意見・要望を聞き、主治医・職員の意見を参考に本人様にあった計画書を作成する様に心がけている	詳細な経過記録などから、入居者の状況やサービスの実施状況を確認している。適切なプラン作成とモニタリングが行われ、いつでも職員が目を通せる状態になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・担当者との意見交換にて情報共有して個別の介護計画が出来る様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様の状況に合わせて個々の対応が出来る様にしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中での支援を心がけているが地域資源との協働はまだ検討する必要もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族さもの意向を優先しそれぞれにあった医療機関・かかりつけ医を決めてもらっている。かかりつけ医より適切な指導を受けている	事業所の協力医のほか、以前からのかかりつけ医や専門医の受診については、家族と協力し通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者様の情報や気づき等を介護記録に残すとともに直接看護師に伝え、その都度適切な指示を受け受診出来る様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供書を提供している。入院中は定期的に訪問して状態の把握に努め情報を病院と共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・家族様の要望があれば対応できるように医療機関との連携体制は出来ている	重度化や看取りの方針については、入居時に意向を聞いている。本人の体調変化に対応して、その都度意向確認し、本人や家族の安心と納得が得られるよう話し合いを積み重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアル作成し緊急時の対応がスムーズに出来る様に話し合い実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練・災害時の訓練をおこなっている。消防署立ち合いや地区の消防団の立会いを依頼して1回は訓練している	消防署・地元消防団立会いの下、年2回の消防訓練を行っている。原発事故の屋内退避訓練も行っているが土砂災害や水害、台風などへの具体的な想定や対策について、職員の理解が十分とは言えない。	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得られるよう、運営推進会議や自治会などで呼びかけを行うなどの取り組みに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人の尊厳を守る為に毎朝の朝礼で言葉使いや対応の徹底のケアを心がける様に話している	援助が必要な時も、さりげない言葉かけやケアを心掛けている。また、本人のプライバシーや情報には、責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力が低下されていてもその人に合わせた説明を行いお手伝いをしながら自己決定が出来る様に支援行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが本人様の生活ペースや体調に合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望により理美容車を利用してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつの準備が出来る方は職員と一緒にいき、テーブル拭き等出来る事を手伝ってもらい楽しさと自信を持ってもらうように支援している	三食とも手作りの食事が提供されている。一汁三菜を基本に、季節感を取り入れた行事ごとのメニューも入居者に喜ばれている。干し柿づくりやバーベキューなど、食への関心を高める取り組みもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養が摂取できる様に嚥下の状態に合わせて食事の形態を工夫し、嫌いな物は料理の方法でわからないようにして提供している。水分にはトロミの使用も行っている。毎回食事・水分の摂取量はチェック行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人にあった口腔ケアの支援を行っている。就寝時は義歯をポリドントにて洗浄しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方はトイレ案内して出来ない所を手伝い排泄してもらっている。自立された方で失敗が多い方は見守り・介助にてパットの使用削減に努めている	排せつチェック表でパターンを把握している。日中はおむつではなく、可能な限りトイレで排泄されるよう声掛けし、本人のサインを読み取り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトや乳製品・おやつに果物を提供して水分量をチェックして飲んでもらったりして自然排便できる様に支援している。場合によっては看護師に相談して主治医からの指示を受けて緩下剤の使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間ある程度決めているが本人様の状態や希望により時間の変更はしている	週3回の入浴が基本であるが、入居者の生活パターンやリズムを大切に柔軟な対応がされている。入浴を拒む人に対しては無理強いせず、一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や生活ペースに合わせた時間を過ごせるように環境整備して休んでもらっています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理して決められた場所に保管している。投薬時は本人様と名前の確認を行い飲み込み迄確認している。薬の変更時は介護記録・申し送りノート・診療日誌に記録して情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様にあった支援をこころがけて洗濯物干し・たたみ・居室の整理などを職員と一緒に、花の手入れや庭の散歩などで気分転換できる様に家族様の協力も得て支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿いながら散歩や外出の機会を作っている。家族様とも連携して外出の機会をお願いしている	花火大会や花見など外出の機会を作っている。日常的にも敷地内の散歩など、戸外で気持ちよく過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持してある利用者様もおられ、買い物依頼されて自分の財布から支払われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも受けたり、かけたりできる様にしていますが、かけ間違いがない様に職員がダイヤル押して渡しています。携帯を所持してある方は自由に話されています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を活け、毎月の手作りカレンダーや行事毎の置物・利用者様の作品を飾り季節感を出している。室内の環境整備には冷暖房の調整を行い体調管理行っている	季節感を感じられるしつらえがされており、落ち着きの中にも活力が引き出されるよう整えられている。リビングには、自然の光が差し込み木のぬくもりがあふれた居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ・テーブル・ソファ等を置き新聞・雑誌を置きゆっくりとくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れたリネン・椅子・棚・置物などを持ってきて頂き自宅の環境に近い教室内で過ごしてもらえるようにしている。希望があればテレビ・カセットなども置いてもらっている	入居時に馴染みのものや思い出のあるものを持ち込むことができる。居室は定期的に換気が行われ、気持ちの良い空気のながれや光が感じられて、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレの手すりは利用者様の自立を支援している。居室やホーム内は危険物を除去して環境整備に努めている		